

# 書くこと 指導のポイント

(その1)

## ～「まとまりのある英文」を書く活動の充実 ①～



「まとまりのある英文」を書く力を育成することは、以前から大きな課題の一つであり、本HPでも「英作文」の指導について、以下のような対策を提案しています。

平成26年度福島県学力調査結果から見た英語科の課題と今後の対策 より

### 「英作文」の指導については

#### ○思考して書く活動を定期的に授業に位置付ける。

- ・使用すべき言語材料を自ら選択できるような「書く活動」を授業で継続的に位置付ける。
- ・定着を目指した書く活動、活用を意図した書く活動のバランスにも配慮する。
- ・個々が「できた」と感じ、自信がもてるよう支援を工夫する。

### 【まとまりのある英文を書かせるために】

#### ①USE-Write や Mini-project で、まとまりのある英文を書く時間を積極的に設定する。

- ・授業で「まとまりのある文」を作成させ、定着確認シートでも取り組ませ、定期テストでも出題するなど工夫する。

#### ②一問一答でなく、ワンセンテンスを付け加えることを日常的に意識させる。

- ・「話す活動」や「書く活動」において意識させる。

※ それぞれの学年末での目指す姿を設定し（「CAN-DO リスト」の中に盛り込む）、校内（教員及び生徒）で共有していくことも重要な点です。

この①、②については、どの学校においても継続的に取り組んでほしい点です。

①、②について詳しく説明します。

### 【「まとまりのある英文」を書く力を身に付けさせるために】

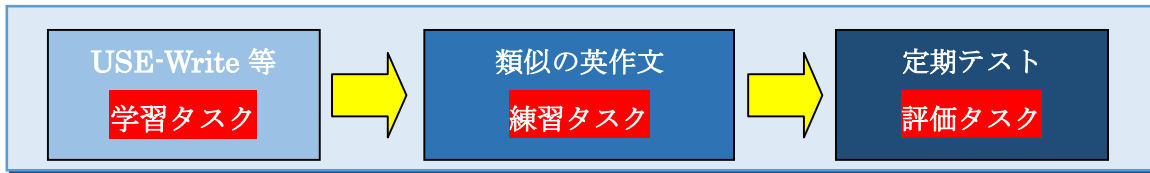
#### ① USE-Write や Mini-project で、 まとまりのある英文を書く時間を積極的に設定する。

確かに、今までは「まとまりのある英文」を書く時間を授業では確保していませんでした。USE-Write 等は扱わない時もありました…。





まず、「まとまりのある英文」を書く機会を設定することが大切です。USE-Write や Mini-project を積極的に活用し、次の図のような考えで行うとよいでしょう。



(参考資料 研修会資料 新潟大学 松澤伸二教授)

USE-Write 等を学習タスクとして授業で行い、定期テストでも出題するという事は納得ができますが、練習タスクの目的は何ですか？



USE-Write や Mini-project を授業で行い、「まとまりのある英文」の書き方（**題材に応じた文章構成、接続詞の使い方、代名詞の使い方**…）を課題に応じ様々学びます。その学びを全員で共有するだけでなく、その学び（新たに学んだ文章構成方法等）を生かし、類似の英作文に取り組みさせることで、文章構成力をより確かなものにする目的があります。



とても大切な視点ですね。今までは練習タスクへの意識がなかったです。



練習タスクとして、**定着確認シート**の英作文問題を活用している学校もあります。



英作文時の辞書活用については、課題や目的に応じて、使用させなかったり、学習タスクだけで活用させたりするなど工夫するとよいでしょう。

## ②一問一答でなく、ワンセンテンスを付け加えることを日常的に意識させる。

これは、昔から言われていますが、根気強く指導することが大切です。まず、ウォームアップ時の Q&A やまとめの英作文で行ってみます。



日常的な手立てとして、継続してほしいところです。

何かを質問されたり、課題を与えられた際に、複数文で応答したり、書く経験を日頃の授業の中で積み重ねていくことが大切です。



各校でも、これらを参考に、生徒の実態に応じ工夫し取り組み、ぜひ、生徒の「まとまりのある英文」を書く力を育成してほしいと思います。